

ドイチェ・レポート HIGHLIGHTS

ドイチェ・アセット・マネジメント 資産運用研究所

2018年の資金流入額は3年ぶりに4兆円超えも、株式相場低迷で年後半は失速・・・。

2019年1月31日 Vol.33

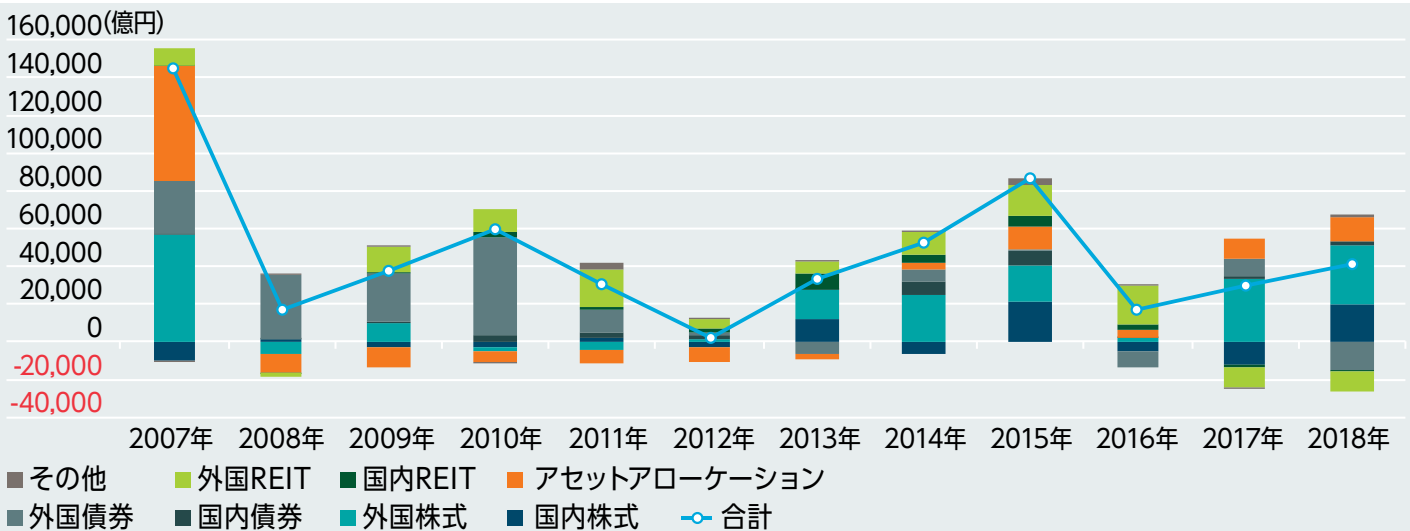
- 2018年のETFを除く追加型株式投信の純設定額が+4.1兆円と2017年を上回り、3年ぶりの高水準。
- タイプ別で見ると外国株式型が+3.1兆円、国内株式型が+2兆円、アロケーション型が+1.3兆円。
- ラップ専用とアロケーション型の合計で+2.4兆円と高水準だが、ラップ専用は年末にかけて急減速。

2018年の投資信託の資金動向をまとめました。運用コンサルティングを手掛けるイボットソン・アソシエイツのデータを用いてETFを除く追加型株式投信の純設定額を集計したところ、2018年は年間で+4兆986億円と2017年の+2兆9,555億円を上回り、2年連続で資金流入が加速するとともに3年ぶりの高

水準となりました。ただし、2018年前半(1-6月)の+2兆9,825億円に対して、年後半(7-12月)は+1兆1,161億円と急減速しており、年末にかけて株式相場が急落する中で、資金フローも失速したと言えそうです。以下、投資対象別の8区分(*)の純設定額の推移を見ていきましょう。

*投資対象別の8区分・・・イボットソン・アソシエイツ (<http://www.ibbotson.co.jp/>) の提供するイボットソン分類を用いて、「国内株式」、「国内債券」、「国内REIT」、「外国株式」、「外国債券」、「外国REIT」、「アセットアロケーション」、「その他」の8分類に区分。国内短期金融資産という分類は「国内債券」に、また、コモディティ、デリバティブ、ヘッジファンドで始まる分類は、「その他」として集計。

国内公募・追加型株式投信(除くETF)の投資対象別 純設定額の推移【年次】



(出所:イボットソン・アソシエイツのデータを用いてドイチェ・アセット・マネジメント(株)資産運用研究所が作成 ※2008年7月以前の償還済みファンドは含まない)

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報及び見通しは、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として記載したものであり、その銘柄・企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

国内公募・追加型株式投信（除くETF）における年次の純設定額ランキング（「その他」を除く投資対象別）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1	アセットアロケーション	外国債券	外国債券	外国債券	外国REIT	外国REIT	外国株式	外国株式	国内株式	外国REIT	外国株式	外国株式
2	外国株式	国内株式	外国REIT	外国REIT	外国債券	国内REIT	国内株式	外国REIT	外国株式	アセットアロケーション	アセットアロケーション	国内株式
3	外国債券	国内債券	外国株式	国内債券	国内債券	国内債券	国内REIT	国内債券	外国REIT	国内REIT	外国債券	アセットアロケーション
4	外国REIT	国内REIT	国内債券	国内REIT	国内株式	外国株式	外国REIT	外国債券	アセットアロケーション	外国株式	国内債券	国内債券
5	国内債券	外国REIT	国内REIT	外国株式	国内REIT	外国債券	国内債券	国内REIT	国内債券	国内債券	国内REIT	国内REIT
6	国内REIT	外国株式	国内株式	国内株式	外国株式	国内株式	アセットアロケーション	アセットアロケーション	国内REIT	国内株式	外国REIT	外国REIT
7	国内株式	アセットアロケーション	アセットアロケーション	アセットアロケーション	アセットアロケーション	アセットアロケーション	外国債券	国内株式	外国債券	外国債券	国内株式	外国債券

（出所：イボットソン・アソシエイツのデータを用いてドイチェ・アセット・マネジメント(株)資産運用研究所が作成
※2008年7月以前の償還済みファンドは含まない）

2018年に最も資金流入額が大きかった資産クラスは、2017年もトップだった外国株式型の+3兆1,105億円で、2017年の+3兆3,666億円とほぼ同水準の資金流入額となりました。2位は国内株式型の+1兆9,910億円で、2017年に記録した-1兆1,879億円の資金流出から3年ぶりにプラスに転じています。国内株式型は2016年、2017年と好調な相場で利益確

定売りが見られましたが、2018年は日本株相場下落の中で、押し目買いの動きも広がったようです。3位はアセットアロケーション型の+1兆3,105億円と2017年の+1兆337億円から加速し、5年連続の資金流入を記録するとともに2007年以来的高水準となりました。

4位の国内債券型までは+2,133億円と資金流入を記録しましたが、それ以外の資産クラスは資金流出となりました。年4回にわたる米利上げが決定される中で、外国債券型が-1兆4,641億円と2年ぶりにマイナス、外国REIT型が-1兆538億円と

2年連続のマイナスとなりました。また、国内REIT型も-1,327億円と2年連続の資金流出に見舞われています。続いて、個別ファンドの純設定額ランキングを見てみましょう。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報及び見直しは、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として記載したものであり、その銘柄・企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

ETF除く追加型株式投信における2018年の純設定額(=設定額-解約額) 上位30ファンド

運用会社	ファンド名	設定日	決算回数	純設定額(2018年)	純資産残高(12月末)	基準価額(12月末)(A)	分配金(12月)(B)	資産区分
1	BNYメロン モビリティ・イノベーション・ファンド	2018/1/22	1	2,937.44	2,125.68	7,208	-	外国株式
2	三井住友 日興FW・日本債券ファンド	2017/10/31	1	2,343.72	2,352.83	10,051	-	国内債券
3	三井住友トラスト 次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	2017/12/15	1	2,230.13	1,982.32	8,725	-	外国株式
4	レオス ひふみプラス	2012/5/28	1	2,170.72	5,306.20	33,268	-	国内株式
5	日興 グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	2015/8/31	2	1,985.44	4,020.83	8,463	-	外国株式
6	三井住友 フューチャー・バイオテック	2018/6/25	1	1,818.32	1,547.04	8,889	-	外国株式
7	ゴールドマン netWIN ゴールドマン・サククス・インターネット戦略ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	1999/11/29	2	1,769.01	2,403.07	12,796	-	外国株式
8	アライアンス アライアンス・パースタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2014/9/16	12	1,633.04	2,442.69	9,418	100	外国株式
9	大和住銀 グローバルEV関連株ファンド(為替ヘッジなし)	2018/1/24	2	1,559.50	1,134.20	7,099	-	外国株式
10	AM-One グローバル・ハイクオリティ成長株ファンド(年2回決算型)(為替ヘッジなし)	2018/8/1	2	1,482.80	1,271.56	8,417	-	外国株式
11	AM-One グローバル・ハイクオリティ成長株ファンド(為替ヘッジなし)	2016/9/30	1	1,451.48	3,427.33	14,187	-	外国株式
12	東京海上 東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	2012/11/9	12	1,343.89	4,823.38	11,243	30	アロケーション
13	AM-One 新興国ハイクオリティ成長株ファンド	2017/12/11	1	1,158.30	2,160.87	8,474	-	外国株式
14	アライアンス アライアンス・パースタイン・米国成長株投信Cコース毎月決算型(為替ヘッジあり)予想分配金提示型	2014/9/16	12	1,144.15	1,247.38	9,407	-	外国株式
15	日興 スマート・ファイブ(毎月決算型)	2013/7/16	12	1,129.82	2,872.04	9,593	40	アロケーション
16	AM-One 日経225ノーロードオープン	1998/8/21	1	976.26	1,979.32	13,917	-	国内株式
17	日興 グローバル・フィンテック株式ファンド(年2回決算型)	2017/9/15	2	921.45	950.56	8,792	-	外国株式
18	大和 ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジなし)	2018/6/11	2	886.55	773.93	8,708	-	外国株式
19	大和 ブル3倍日本株ポートフォリオV	2018/6/29	1	886.15	616.41	6,876	-	その他
20	三菱UFJ国際 未来イノベーション成長株ファンド	2018/3/27	1	832.14	650.22	7,854	-	国内株式
21	UBS UBS中国新時代株式ファンド(年1回決算型)	2018/2/9	1	781.51	624.73	8,589	-	外国株式
22	野村 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース(野村SMA・EW向け)	2017/8/25	1	766.31	1,563.93	9,767	-	外国債券
23	JPモルガン JPMザ・ジャパン(年4回決算型)	2017/10/10	4	759.26	916.89	7,595	-	国内株式
24	JP投信 JP4資産バランスファンド 安定成長コース	2016/2/18	6	749.74	1,024.04	11,004	-	アロケーション
25	ゴールドマン netWIN ゴールドマン・サククス・インターネット戦略ファンド Aコース(為替ヘッジあり)	1999/11/29	2	738.73	1,048.74	10,411	-	外国株式
26	三井住友 三井住友・げんきシニアライフ・オープン	2000/5/26	2	734.58	890.82	8,194	-	国内株式
27	キャピタル キャピタル・インベストメント・カンパニー・オブ・アメリカ ICA	2018/1/31	1	714.55	649.57	8,808	-	外国株式
28	日興 グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	2018/1/31	1	694.05	567.04	7,625	-	外国株式
29	AM-One MHAM新興成長株オープン	2000/2/25	1	684.76	751.93	17,694	-	国内株式
30	東京海上 東京海上・円資産バランスファンド(年1回決算型)	2014/11/10	1	650.82	1,157.64	10,958	-	アロケーション

(出所:イボットソン・アソシエイツのデータを基にドイチェ(株)資産運用研究所が作成 ※純資産、純設定額は億円
テーマ型の外国株式ファンドにピンク色、アロケーション型に黄色、ラップ/SMA専用型に水色、新興国関連に緑色の網掛け)

上のランキングをみると、上位10本のうち8本が外国株式型となっており、そのうち6本がテーマ型のファンドとなっています。テーマ型の外国株式ファンドは上位30本でも10本がランクインしており、2017年に続いて、テーマ型ファンドが外国株式

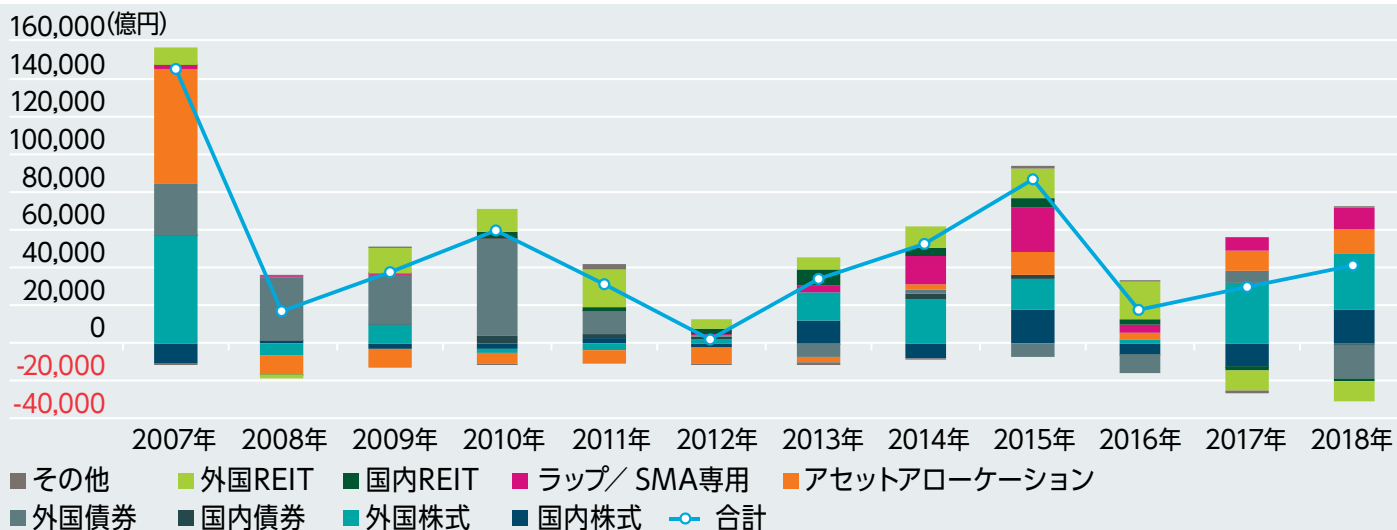
型の資金流入を牽引しています。外国株式型としては、2017年はインド株を中心に新興国関連のファンドも目立ちましたが、こちらは2018年の新興国市場の変動性の高まりを受けて、13位と21位の2本にとどまりました。

また、アセットアロケーション型ファンドとともにラップ/SMA専用ファンドも引き続き上位にランクインしています。これらのラップ/SMA専用ファンドは国内債券型、外国債券型に分類されていますが、ラップ口座を通じて投資一任運用を行う中で選ばれた

ファンドであり、投資家の立場ではアセットアロケーション型の商品を選んでいとも言えます。そこで、先述の8区分からラップ/SMA専用ファンド分を引き、ラップ/SMA専用ファンドを独立の区分として9区分で集計し直したものが次ページのグラフです。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報及び見直しは、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として記載したものであり、その銘柄・企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

国内公募・追加型株式投信(除くETF)の投資対象別(ラップ/SMA専用を別区分) 純設定額の推移【年次】



(出所:イボットソン・アソシエイツのデータを用いてドイチェ・アセット・マネジメント(株)資産運用研究所が作成
※2008年7月以前の償還済みファンドは含まない)

国内公募・追加型株式投信(除くETF)における年次の純設定額ランキング (ラップ/SMA専用ファンドをアセットアロケーション型に合算)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1	アロケーション+ラップ	外国債券	外国債券	外国債券	外国REIT	外国REIT	外国株式	外国株式	アロケーション+ラップ	外国REIT	外国株式	外国株式
2	外国株式	国内株式	外国REIT	外国REIT	外国債券	国内REIT	国内株式	アロケーション+ラップ	国内株式	アロケーション+ラップ	アロケーション+ラップ	アロケーション+ラップ
3	外国債券	国内債券	外国株式	国内債券	国内株式	外国株式	国内REIT	外国REIT	外国株式	国内REIT	外国債券	国内株式
4	外国REIT	国内REIT	国内債券	国内REIT	国内債券	国内債券	外国REIT	国内REIT	外国REIT	外国株式	国内債券	国内債券
5	国内債券	外国REIT	国内REIT	外国株式	国内REIT	外国債券	アロケーション+ラップ	国内債券	国内REIT	国内債券	国内REIT	国内REIT
6	国内REIT	外国株式	国内株式	国内株式	外国株式	国内株式	国内債券	外国債券	国内債券	国内株式	外国REIT	外国REIT
7	国内株式	アロケーション+ラップ	アロケーション+ラップ	アロケーション+ラップ	アロケーション+ラップ	アロケーション+ラップ	外国債券	国内株式	外国債券	外国債券	国内株式	外国債券

(出所:イボットソン・アソシエイツのデータを用いてドイチェ・アセット・マネジメント(株)資産運用研究所が作成
※2008年7月以前の償還済みファンドは含まない)

ラップ/SMA専用ファンドの純設定額は2018年に+1兆1,183億円と、2017年の+7,345億円から加速し、3年ぶりの高水準となりました。ラップ/SMA専用ファンドを除くアセットアロケーション型は+1兆3,068億円の資金流入となっており、合計すると

+2兆4,251億円となります。上のチャートで、ラップ/SMA専用ファンドとアセットアロケーション型の分類を合計したものがピンク色の網掛けとなっている「アロケーション+ラップ」ですが、これを見ると国内株式型を抜いて、外国株式型に次ぐ2位となります。

ラップ/SMA専用ファンド、アセットアロケーション型で、それぞれ月間1,000億円程度ずつの資金流入があった計算となり、アセットアロケーション運用を通じて預り資産残高を積み上げる動きは、2018年も続いていたと言えます。それでも、年後半の株式相場の下落を受けて、年末にかけて資金流入額は減速し

ています。とりわけ、ラップ/SMA専用ファンドは昨年11月に+461億円、12月に+148億円と資金流入が急減速しており、これまで以上に投資家に資産運用の意義を伝えることが重要な局面に来ていると思われます。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報及び見通しは、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として記載したものであり、その銘柄・企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

ドイチェ・リポートHIGHLIGHTSとは？

ドイチェ・アセット・マネジメント 資産運用研究所は、主に投資信託の販売に携わる銀行や証券会社向けのサービスとして、資産運用業界動向を分析した「ドイチェ・リポート」を発行しています。「ドイチェ・リポートHighlights」では、「ドイチェ・リポート」の中から、特に個人投資家の皆さまの資産形成に役立つと思われる情報やデータをハイライトしてご紹介します。

ご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご購入に際しては、事前に最新の投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面の内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。

投資信託に係る費用について

【お申込みいただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。】

- 購入時に直接ご負担いただく費用・・・購入時手数料 上限3.78%(税抜3.50%)
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保額 上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・運用管理費用(信託報酬) 上限2.0304%程度(税込)
- その他費用・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。
投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認下さい。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託の運用による損益は、すべて受益者に帰属します。投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本及び利息の保証はありません。投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険及び保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご購入に際しては、事前に最新の投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面の内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。

なお、当社では投資信託の直接の販売は行っておりませんので、実際のお申込みにあたっては、各投資信託取扱いの販売会社にお問合せ下さい。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、
一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報及び見通しは、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として記載したものであり、その銘柄・企業の株式等の売買を推奨するものではありません。